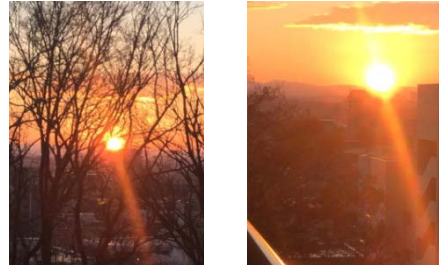


このまま流されますか

表題は朝日新聞 2016 年 12 月 31 日の社説「ニッポン 2016 年」。とにかく忘れやすい「記憶」をしっかりと「記録」するため、元旦の朝に抜粋しておいた。写真は朝 7 時過ぎに撮った。「定点観測」している、ことし最初の朝焼け。なんだか光が届きそうな感じた。



2016 年が終わる。世界中で「分断」「亀裂」があらわになった。ニッポンは、どうか。「言葉」で振り返る。政治では、悲しいかな、ことしもカネの問題があった。

「私の政治家としての美学、生き様に反する」業者から現金をもらった甘利明経済再生相は 1 月に、こんな発言を残して閣僚を辞めた。その後の国会を「睡眠障害」で欠席し、関係者の不起訴が決まると、さっさと復帰した。（あまりのことにレポートで批判!）

国会はさながら「安倍 1 強」劇場だった。安倍晋三首相は夏の参院選に勝ち、自民党総裁の任期延長に異論も出ない。「結党以来、強行採決をしようと考えたことはない」「こんな議論を何時間やっても同じですよ」首相の答弁は、ぞんざいさを増し、与党は「数の力」で採決を強行していった。

南スーダンでは武器で人が殺されている。それを稲田朋美防衛相はこう説明した。「それは法的な意味における戦闘行為ではなく衝突である」この種の「言い換え」が増えた。沖縄県でのオスプレイ大破は「不時着」だった。安倍政権は「積極的平和主義」で「武器輸出三原則」を葬り、「防衛装備移転三原則」と称している。

この夏、101 歳で逝ったジャーナリスト、むのたけじさんの著作に次の一節がある。「(日本人が)ずるずるべったり潮流に押し流されていくのがたまらなかった」敗戦直後の世の中への感想だが、どこか現在に通じないか。

過労自殺した電通の女性社員(24)の言葉も切ない。「大好きで大切なお母さん。さようなら。ありがとう。人生も仕事もすべてがつらいです」衝撃的な事件があった。相模原市の障害者施設で 19 人を殺害した男は言った。「障害者は生きていても無駄だ」この異常な偏見に対する確固たる反論を、だれもが心に堅持し続けねばならない。

ことしも、いじめを苦しめた自殺を防げなかった。原発事故の自主避難先で、いじめられた少年の手記が話題になった。「いままでなんかいも死のうとおもった。でも、しんさいでいっぱい死んだからつらいけど ぼくはいきるときめた」

それぞれの「言葉」が、ニッポンのありのままの姿を映している。だから聞き流すまい。立ち止まって受け止めよう。このまま来年も流されてしまわぬように。

(2017 年 1 月 2 日)